

# がん治療と妊娠・出産のこと

がん治療は、妊娠する力に影響することがあります。

治療前に将来の妊娠を守るための方法があります(妊孕性温存療法)。

治療後にも妊娠をサポートする方法があります(がん治療後の生殖医療)。

がん治療を最優先にすることを大前提として、がん患者さんが子供を持つことを支援する医療を生殖医療と言います。そのなかには、がん治療前に妊娠するために必要な能力を温存するための「妊孕性温存療法」と、がん治療後の妊娠を補助するための「がん治療後の生殖医療」があります。近年の生殖医療や凍結技術の発展により、配偶子や受精卵を凍結することが可能になっています。

がん患者さんが将来子どもを持つことができるように、希望をもってがん治療にのぞめるよう、これらの治療があります。妊孕性温存をしないということも一つの選択肢です。このような治療法があることを知ったうえで、後悔のない選択をすることが大切です。

こんなことでお困りではないですか？

- がん治療が一段落したら、子供をもつことを考えたい
- がん治療をしても、子供が持てるのかを聞きたい
- がん治療が、性生活に影響があるかを聞きたい

私たちが相談にのります！

まずは治療担当医にご相談ください。

AYAサポートチームが相談にのります。

がん治療後の生殖医療に関しては、福島県立医科大学産婦人科での治療が必要です。

詳しく知りたい方はこちら



国立がん研究センター  
がん情報サービス  
「妊孕性」